ISSN 0919-0120
2009.6 No.68

豊田市郷土資料館だより
No.68

Toyota City Museum
Of
Local History

目次

・企画展「遺跡を探せ！ 遺跡分布調査 藤岡・小原・足助編」 …2
・全国近代化遺産活用連絡協議会
　全国大会・フォーラム準備レポート ……4
・平成20年度文化財保護事業報告 ……5
・平成20年度埋蔵文化財調査の概要 ……6
・発見館平成20年度事業報告 ……7
・文化財シリーズ68・資料館NEWS ……8

千石遺跡「大足（おおあし）」出土状況（古代）約80cm×40cm

大足使用図（昭和30年代）

企画展『遺跡を探せ！』

―遺跡分布調査　藤岡・小原・足助編―

豊田市は愛知県内でも有数の遺跡が多い土地です。平成17年４月に、藤岡・小原・足助・稲武・下山・旭の町村が加わったことで、さらにその数は増えました。

現在、豊田市教育委員会では新しく加わった町村部の遺跡の保護や活用のため「遺跡詳細分布調査」を実施しています。これは、田畑や山林の中をくまなく歩きながら、遺物がどこに落ちているか、遺構がどこに作られているかを探し、遺跡の位置と範囲を確認する地道な作業です。これまでに、平成18年度　藤岡地区（南部）、19年度　藤岡地区（北部）・小原地区、20年度　足助地区と調査を進め､今年度はいよいよ旭地区･稲武地区へと足を踏み入れています。

過去３年を振り返ってみても思い出深いことばかりです。特に、昨年度の足助地区は、合併町村の中でもエリアが広く、また標高が高いため、冬季の雪による調査遅延が予測されました。「とにかく冬が来る前になんとかせねば…」と、南山大学を中心に名古屋地区で考古学を学ぶ大学生･大学院生達の参加のもと、８･９月の暑い期間を除いて、毎月足助を踏査し続けました。その甲斐もあり、２月までに足助全地区を踏査、遺跡分布を記録することができました。

下の写真は分布調査のひとコマです。写真にあるように「長袖」「長ズボン」「長靴」の「遺跡調査３長ルック」、そして「帽子」「軍手」「首のタオル」も欠かせません。普段は大学のキャンパスをオシャレな格好で歩く若者達も、この時ばかりは大変身です。胸と腕に遺跡分布調査員であることを示す名札や腕章を付け、およそ２～３人の１班がレンタカーで移動し、水田や畑などの耕作地や山林を踏査します。

写真１　分布調査の一幕（平成19年度藤岡地区）
（左 遺物収納係、右 地図記録係、中央 GPS係）

さて、調査中には遺跡の存在を示す土器・陶磁器・石器などの遺物や、建物跡・城館跡・窯跡などの遺構に注意を払い、もし確認できればその内容と位置を地図とGPSに記録していきます。遺物・遺構が存在する地点が、同一の地形上に複数確認できた場合、それを一つの「遺跡範囲」として認定し、字名から遺跡名称をつけます。

では、今回の分布調査でどれだけの遺跡が見つかったのでしょうか？過去に調査・出版された『愛知県遺跡地図』と比較してみると、藤岡地区は99→120遺跡、小原地区は36→63遺跡、足助地区は179→195遺跡と、小原地区を筆頭にいずれの地区でも遺跡数は増加しています。新たに加わった遺跡は、特に鎌倉・室町時代の遺物散布地が中心となりますが、これは、全国的に盛んに分布調査が行われた60～70年代頃、歴史時代、特に中世以降の遺跡に対する関心がまだ低く、文化財という認識がなかったことも反映しているのでしょう。さらに、周知の遺跡であっても、土地改良により完全に滅失してしまった遺跡や、今回の調査を通じて再検討され、遺跡であることが疑わしく、誤認であったことが確認された遺跡もあります。

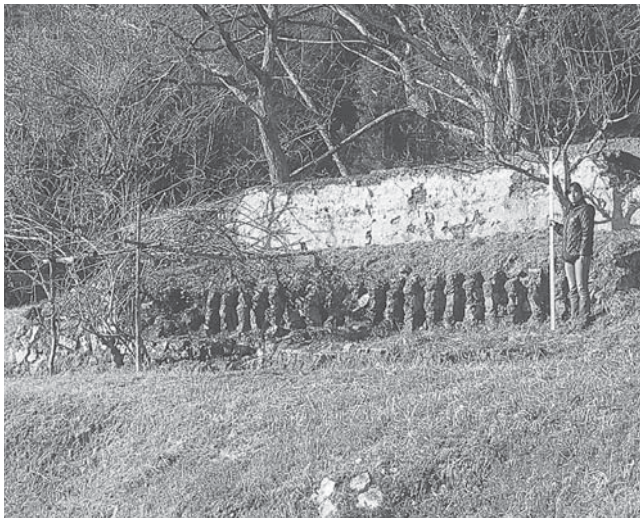
以上のような成果を踏まえて、新遺跡地図が作られました。最大の改良点は、従来の遺跡地図の縮尺が1/25,000であったものが、1/2,500と大きくなったことです。これにより遺跡の範囲が一目でわかるようになりました。この地図は現在、豊田市郷土資料館内で閲覧可能で、開発行為などから「遺跡＝埋蔵文化財」を保護していくための資料として活用されています。

では、なぜ遺跡を守るのでしょう。「文化財保護法」では、遺跡や出土品などの文化財は、「国民的な財産」であり、国の歴史・文化の理解に益するものとして、地方公共団体はその保護に努め、住民は公開や活用に努めるとされています。ただ、「所属」と「責任」については述べられていても、活用の具体的な方法には触れられていません。どのように活用するかは地方や住民に委ねられているのです。しかし日本の文化財行政は、保護法制定（昭和25年）以後、ほぼ60年に渡って「保護」にその労力の大半を集中しており、「活用」に関して積極的に触れられるようになったのは、ごく最近のことです。もちろん「保護」が十分なされていることが前提ですが、地域の財産「遺跡」をいかに活用するかを、住民・行政共に考える時がきているのでしょう。

「企画展　遺跡を探せ！－遺跡分布調査－藤岡・小原・足助編」は、遺跡分布調査の成果を踏まえ、地域の遺跡の現状を住民の方々に知っていただくきっかけとして企画しました。ここでは、その一部を紹介しましょう。

藤岡地区・小原地区の近代窯業遺跡群（上仁木町ほか）

窯業遺跡はこれまで藤岡地区で知られていた９遺跡に加え、新たに小原地区で５遺跡が確認されました。明治10年代から昭和初年まで磁器の日常食器を生産していました。近代の窯業遺跡は全国的に存在していますが、本場の瀬戸・美濃窯は都市化の中でほぼ壊滅状態となりました。特に小原地区の遺跡は、窯および周辺遺構の残存が良好であり、貴重な事例として注目されています。



穴田窯（小原地区 上仁木町）近代

宇頭坂窯の製品（小原地区 上仁木町）飯碗・湯呑（近代）

足助地区の岩陰群（岩谷町）

今回の調査では縄文早期の押型文土器や石器が採集され、約１万年前からこの岩陰が利用されていたことがわかりました。今後、同様な遺跡が確認されるかもしれません。（高橋健太郎）

堂ノ下遺跡（足助地区 岩谷町）　縄文時代～中世

企画展
「遺跡を探せ！ー遺跡分布調査 藤岡・小原・足助編ー」

開催期日　５月30日㈯から７月５日㈰　月曜休館

会場　豊田市郷土資料館第２展示室　観覧無料

藤岡・小原・足助地区の地域色豊かな遺跡について紹介します。

堂ノ下遺跡出土の押型文土器（縄文早期）

全国近代化遺産活用連絡協議会

全国大会・フォーラム準備レポート

近代化遺産を見直し、保存活用していこうという全国的な運動が注目されています。この運動を全国規模で推進しているのが、文化庁が中心となっている「全国近代化遺産活用連絡協議会」（以下：全近）です。その全国大会・フォーラムが、今年度は豊田市で開催されることになりました。その概要をお伝えします。

1 開催期日

平成21年７月23日㈭～７月24日㈮

（25日㈯オプション 見学会）

2 開催場所

全国大会・フォーラム:豊田市能楽堂

見学会　市内各地（４コース設定）

3 内　容

テーマ：近代から発見する「とよた」

－地域資源としての近代化遺産の保存と活用－

○７月23日（１日目）全国大会・フォーラム

①全国近代化遺産活用連絡協議会 総会

※参加対象:全近会員等

②フォーラム　　13：00～17：00

・民俗芸能披露（古瀬間ばやし・下山三河万歳）

・基調講演

（講師：トヨタテクノミュージアム

産業技術記念館館長 布施直人氏）

・開催地事例報告

・討論会

・開催市宣言

※参加対象：市民、全近会員等

○７月24日（２日目）現地見学会

・豊田市域の近代化遺産見学

テーマに沿って４コース

※参加対象：市民、全近会員等

○７月25日（３日目）足助のまち並み見学（OP）

※参加対象：市民・全近会員等

全国大会・フォーラム会場　豊田市能楽堂

７月24日㈮　見学会訪問地（予定）

コース１：河川交通と陸上交通の遺産をめぐる

百々貯木場　旧三河広瀬駅　伊世賀美隧道

旧稲武大橋　ウルシゼ橋等

コース２：近代の建築美をめぐる

挙母支院　民芸館（旧井上家西洋館）

トヨタ鞍ヶ池記念館・旧豊田喜一郎邸　発見館

寿町の達磨窯　明治用水旧頭首工等

コース３：川と動力・水車をめぐる

藤岡民俗資料館（トロミル水車）　明治用水旧頭首工　河合和紡績工場　松平地区ガラ紡工場跡（桜水車跡）岩津発電所・堰堤等

コース４：現代と近代のものづくり

寿町の達磨窯　桝塚味噌・味噌蔵

トヨタ工場見学　トヨタ会館等

〈関連行事〉

豊田市近代の産業とくらし発見館企画展

「喜一郎と寿一 ―とよた誕生秘話―」

会期：７月７日～10月４日　観覧料無料

今年は、自動車産業と豊田市発展の基礎を築いた、豊田喜一郎と中村寿一の出会いから77年目（喜寿）。ものづくりとまちづくりにかけた２人の情熱から、とよたの発展の礎を再発見します。

（伊藤俊満）

平成20年度文化財保護事業報告【文化財保護事務】

【文化財保護事務】

1 文化財保護審議会

審議会開催５回
（答申３件・諮問３件）
研修
（重要伝統的建造物群保存地区・木曾平沢、松本市馬場家住宅）
文化財防火デー参加・講評
（永福寺、足助八幡宮始め６ヵ所）

2 埋蔵文化財（6頁参照）

3 文化財指定

指定日６月２日
寺部城跡（史跡）
馬場瀬古墳群（史跡）
寿町の達磨窯（有形民俗文化財）

4 文化財等保存維持・修理補助事業

史跡名勝天然記念物保存整備１件
（杉本の貞観スギ）
有形民俗文化財保存修理４団体
（山車・竹生町他）
有形文化財保存施設１件
（如意寺）
有形民俗文化財保存維持16団体
（喜多町、足助田町他）
無形民俗文化財保存維持36団体
（はやし等21・棒の手15）
伝統的郷土芸能保存維持23団体
（西山万歳他）
伝統的郷土芸能保存修理３団体
（八草町八柱太鼓他）
郷土の先人顕彰活動５団体
（渡辺守綱公顕彰会他）
郷土史調査研究１団体
（豊田市郷土史研究会）

総数90団体

5 史跡、建造物等整備、修理

馬場瀬古墳群整備
寺部城跡整備測量設計
丸根城跡駐車場舗装
寿町の達磨窯環境整備
史跡標柱設置（今朝平遺跡）
村上家千巻舎修理（市指定）
耐震工事（足助中馬館・足助資料館・旭郷土資料館）
ニホンカモシカ死体処理件数19件
足助町伝統的建造物群保存対策支援

【郷土資料館事務】

1 展示・入館者数

平成20年度総数14,497人
特別展「茶と器」11/1～12/14　1,968人
企画展「村上忠順をめぐる人々」
9/13～10/13　1,179人
企画展「とよたの近世城郭」
1/31～3/15　2,234人
ミニ企画展「郷土資料館のひなまつり」
2/7～3/7　1,732人

2 資料調査

とよたの祭事記録（坪崎の火鑽神事）
歴史的建造物調査２件（足助、上郷地区）
とよたのうた
指定文化財調査・撮影

3 資料購入・修理

購入資料９件
渡辺半蔵守綱画像（新・市指定）修復

4 講座

「こどもの日によろいをきてみよう」他17講座
受講者　1,261人
博物館館務実習受入れ６人（９月）

5 近代の産業とくらし発見館（7頁参照）

6 その他

（仮）豊田市ふるさと歴史館建設基本構想の検討
博学連携の推進、スクールサポート確立

整備された馬場瀬古墳群（平戸橋町・勘八町）

平成20年度埋蔵文化財調査の概要

○遺跡の有無の照会

住宅建設や宅地造成、開発の事前調査といった各種開発に伴って文化財課へは埋蔵文化財の有無が照会されます。照会件数は平成18年度568件、平成19年度728件、平成20年度726件あり、このうち平成20年度に遺跡（埋蔵文化財包蔵地）に該当したものは175件ありました。地区別では表１のような内訳で、昨年同様に猿投・高橋・挙母地区が多くなっていますが、昨年に比べると旧町村地区ではわずかに増えています。

表１　地区別遺跡該当一覧

地区	猿投	挙母	高橋	松平	高岡	上郷
件数	26	45	35	2	5	11
地区	藤岡	小原	足助	下山	旭	稲武
件数	16	5	11	2	9	8

○遺跡調査の届出

表２　地区別届出一覧

地区	民間	公共	主な遺跡
猿投	11	3	伊保遺跡・亀首遺跡
挙母	20	3	瑞穂遺跡・七州城跡
高橋	12	2	高橋遺跡・寺部城関連遺跡
松平	0	0	
高岡	0	0	
上郷	3	0	神明遺跡
藤岡	4	0	郷戸遺跡・水汲遺跡
小原	0	0	
足助	2	4	宮平遺跡・宮ノ後遺跡
下山	1	0	田代城跡
旭	4	1	島崎遺跡
稲武	2	1	大井平道下遺跡
計	59	14	

遺跡内での開発には文化財保護法により届出・通知が必要で、平成20年度は民間開発事業59件（前年比△15件）、公共事業14件（前年比△８件）ありました。昨年度と同様に旧市内の挙母・高橋・猿投地区で多く出され、旧町村地区では足助・旭地区で多くなっています。遺跡別では瑞穂遺跡が最も多く８件で、次いで高橋遺跡・挙母城（七州城）跡・寺部城関連遺跡・伊保遺跡での届出が多くなっています。また、事業別の内訳は民間開発のうち半数が個人住宅の建設や宅地造成によるもので、ほかに共同住宅の建設・事業系建物の建設・通信塔の建設・ガス工事等がありました。公共事業では道路工事・公園造成などによるものでした。これらへの対応は［工事立会］57件、［確認調査・試掘調査］５件、［本調査］８件でした。また、表３・４は調査を実施した遺跡の概要です。

表３　本調査を実施した遺跡一覧

遺跡名(所在地)	調査原因	調査面積(㎡)	主な遺構・遺物
挙母城(七州城)跡(常盤町)	住宅建設	124	石列
千石遺跡(上野町)	区画整理	4,249	溝・流路
千石遺跡(上野町)	区画整理	4,447	堤･大足･ドングリピット
挙母城(七州城)跡(常盤町)	共同住宅建設	156	建物・溝
高橋遺跡(上野町)	住宅建設	36	竪穴建物
神明遺跡(鴛鴨町)	住宅建設	75	竪穴建物
亀首遺跡(亀首町)	道路建設	2,610	溝・柱穴
高橋遺跡(高上２丁目)	住宅建設	86	竪穴建物
今町宮之後遺跡(今町)	河川工事	4,100	石積み・竪穴建物
宮平遺跡(足助町)	消防設備	78	竪穴建物
宮ノ後遺跡(足助町)	庁舎建設	156	土坑
稲荷塚古墳周辺(下林町)	住宅建設	34	土坑

千石遺跡のドングリ出土状況（縄文時代）

表４　確認調査・試掘調査を実施した遺跡一覧

遺跡名(所在地)	調査原因	調査面積(㎡)	主な遺構
高橋遺跡(上野町)	住宅建設	22	－
今地区(今町)	河川工事	8.4	－
宮口城跡(宮上)	区画整理	39	－
寺部城跡(寺部町)	史跡整備	10	－
宮平遺跡(足助町)	消防設備	9	土坑
大井平道下遺跡(稲武町)	公園整備	29	－
塚越遺跡(本徳町)	学術調査	57	－
西ノ宮遺跡(猿投町)	測量調査	890	－

この他、電柱工事など軽微な工事に伴う立会いが数十件あったほか、開発事前協議や土地利用対策会議にかけられ、遺跡の有無確認をしたものが31件ありました。

（杉浦裕幸）

発見館　平成20年度事業報告

豊田市近代の産業とくらし発見館（通称『発見館』）は、開館以来「近代から「とよた」を発見する」を標語に掲げ、豊田市全域を展示室としたエコミュージアムの拠点施設として活動しています。平成20年度中には３回の企画展をはじめ、ものづくり講座やワークショップ、見学会など各種事業を展開しました。また合併旧町村との関わりも重視して交流を深める活動も行いました。

（平成20年度開催事業等）

企画展

「猿投山麓のトロミル水車」（期間：7月15日～8月31日、入館者数1,660人）

「橋のある風景」（期間：10月21日～12月21日、来館者数1,841人）

「尾三バス、走る！」（期間：１月27日～３月22日、来館者数2,311人）

ものづくり講座等（主催のみ）

手織り機コースター作り／ミニ手織りでしおりづくり／五月飾り・まゆ兜作り／鬼瓦作り実演見学とミニ瓦作り／藍の生葉で草木染にチャレンジ／Myオカリナをつくろう／クリスマスランプシェードづくり／鋳造で作るクリスマスオーナメント／吊るし雛をつくろう／人造石をつくってみよう／繭玉でおひなさまをつくろう！／発見講座「まゆから手芸品をつくろう」／お箸で橋づくり

ワークショップ

人造石をつくろう！

見学会

まちなか見学会／猿投山ろくのトロミル水車ツアー／近代化遺産探訪ミステリーツアー／足助の町並みに近代を見つける／とよた橋めぐり／復刻、尾三バス路線

その他

座談会 尾三バスの思ひ出/発見講座「郷土をひらいた人、稲武でみーつけた」古橋源六郎／近代化遺産保存活用シンポジウム

企画展「尾三バス、走る!」

尾三バスの路線が、東は北設楽郡田口、西は名古屋、南は岡崎、北は稲武と現在の豊田市のほとんどの地域をカバーしていたことから、多くの市民の方々に尾三バスの魅力を再発見していただきました。さらに尾三バスにかかわりのあった方々が、発見館の展示室で再会を果たすなど、時代と時代を越えて、場所と場所を越えて人と人をつなぐ活動ができたことに、大きな意義を感じました。

発見講座「郷土をひらいた人、稲武でみーつけた」

現在も養蚕を続けてみえる稲武のまゆっこクラブさんと連携して、養蚕・製糸のよさを発見していただく活動を実施しました。また、稲武のまちなか見学会では、稲武をひらいた古橋家や大正時代の発電小屋などから近代を発見する活動を展開しました。

平成20年度の発見館の活動への参加者数は、13,366人と過去最高でした。平成21年度は、「全国近代化遺産活用連絡協議会　全国大会・フォーラム」が豊田市で開催されます。７月23日・24日は、ぜひご参加ください。　（伊藤俊満）

発見館の最新情報はこちらから⇒

ホームページ：www.toyota-hakken.com/

ブログ：www.toyota-hakken.at.webry.info/

問合せ先（発見館）

電話（0565）33－0301

メールアドレス：hakken@city.toyota.aichi.jp

文化財シリーズ

68

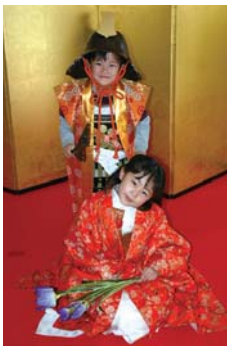
豊田市指定文化財・考古資料
今朝平遺跡出土品

今朝平遺跡（県指定史跡・足助町）から出土した考古資料43点が豊田市の文化財に指定されています。今朝平遺跡は足助川右岸の河岸段丘上にある縄文時代後期から晩期の遺跡です。遺跡は丸く石が並べられた環状配石遺構（ストーンサークル）が２ヶ所見つかったことで知られています。

考古資料に指定されている出土品43点の内訳は土偶22点、動物型土製品（イノシシ）１点、臼型耳飾９点、玉類３点、石錘８点です。このうち土偶は人の形につくられた土製品で、女性像が多く繁栄や豊穣を願う宗教的、呪術的な意味を持つものと考えられています。今朝平遺跡出土の土偶には大きさ7.4cmのほぼ完全な形を残すものがあります。土偶は力士のような豊かな体に、大胆に区切られた線で胸・腹が表現されています。この豊満な体の女性像は「縄文のビーナス」とも呼ばれています。この他にも足だけのものや胴体部分だけのものなど22点がまとまって出土しており配石遺構とあわせて儀式的な意味を持つ可能性がある貴重な資料です。

資料館 NEWS

「しりょうかんの五月人形・節句飾り」



４月25日㈯から５月10日㈰まで郷土資料館では市民から寄贈された五月人形を展示しました。

和紙で作られた巨大な鯉のぼりの展示や、鯉のぼりのうろこに願い事を書くワークショップが人気でした。

また２日には「君も武将になれる！よろいを着てみよう！」を開催し、約350人が参加しました。鎧をつけた自分の姿を鏡で見て驚いている姿が印象的でした。

企画展「古い道具と昔のくらし」７月18日～９月27日

子どもむけに今は使われなくなった農具や古い道具を紹介し、体験しながら学べる展示です。

「夏休みこども月間」７月18日～８月30日

火起こし体験など郷土資料館ならではの昔の体験や、クイズラリーなどが楽しめます。

利用案内

開館時間　９：00～17：00
休 館 日　毎週月曜日（祝祭日は閉館）、
入 場 料　無料（特別展開催中は有料）
交　　通　名鉄「梅坪駅」より南へ　徒歩10分
　　名鉄「豊田市駅」より北へ　徒歩15分
　　愛知環状鉄道「新豊田駅」より　徒歩15分
駐 車 場　約20台

■豊田市郷土資料館だより　No.68 ■

平成21年６月22日発行
編集・発行　豊田市郷土資料館

〒471－0079　豊田市陣中町１－21
☎（0565）32－6561　FAX（0565）34－0095
E-mail：rekihaku@city.toyota.aichi.jp
URL：http://www.toyota-rekihaku.com

※豊田市郷土資料館だよりはHPでもご覧になれます。